

三里塚・国鉄決戦の爆発で管理春闘打破・中曽根打倒！

動労千葉は、4月19日、14時15分より、85年度新賃金をめぐり国鉄本社交渉を行った。この席上、当局は次の「有額回答」を行ってきた。

ベ・ア・一、二三〇円（0.75%）
定昇四、八三四円（2.24%）
計六、〇六四円（2.81%）

動労千葉は、この超低額回答に対し、次のように主張した。

生活実態を無視した低額回答

オ一に、この「回答」は、動労千葉の要求する平均二五、六〇〇円の組合要求と大きくかけはなれ、組合員の生活実態を全く無視したものである。昨年12月に全組合員を対象にした生活実態調査によれば、国鉄からの収入だけでは生活が困難なため「妻の内職」「パート」等によって赤字を補填し、さらに「貯金を食いつぶして」家計のやりくりをしていると回答した組合員が実に全体の91・8%にも達している。

また、共苦かけ金の引き上げ、物価の上昇分を考慮すると、国鉄労働者の場合、この数年間は実質賃下げである。従ってこの実状をふまえ、組合要求の方向で再検討すべきである。

合理化・転場規律なき合意強要

オ二に、この日、国鉄当局が運輸大臣に提出した3万500人に及ぶ大合理化を骨子とした「経営改善の具体的推進について」なる計画を前提にこの「有額回答」が出されているがこれは全く不当である。われわれの切実な賃金要求に対し、合理化受け入れを「人質」とする当局の態度は断じて許せない。しかし当局は、「回答はこれで精いっぱい。理解・協力されたい」というのみで、対立のまま交渉は打ち切られた。

管理春闘うち破り、中曽根と対決する労働運動を

85春闘は、日経連副会長鈴木をして「春

のこの時期を節目として労使が経営問題を率直に話し合う場があるということとは非常にいいことだ。春闘が果たした大きな役割はこれからも続く」と言わしめているように、政府・資本の主導のもと賃上げならぬ「低額抑え込み」の場の様相を呈している。労働側が「内需拡大のための賃上げ」や「景気拡大に応じた分け前」論などあらゆる資本の論理のワク内で要求を行う以上、中曽根の『国益論』『企業防衛の論理』への屈服・敗北は当然のことと言える。

動労千葉は、労働側の屈服状況・低額おさえこみ、政府当局の責任による「赤字を口実とした格差賃金の強要」という状況を見すえ、更有力な闘争で即う路線と決意ぬぎに賃金闘争の展望はないという立場で、4月16日以降36協定破棄、4月17全組合員を対象とする非協力・減産行動を配し、4月16動労千葉総決起集会を496名の結集で即いぬぐ中で交渉を続けてきた。

こうした中で、4月16日の政府交渉で政府側が「賃金動向を反映した有額回答を格差なしで19日に行う」意向を明らかにし、これをふまえた国鉄当局は17日の闘争中止を求めてきた。

動労千葉としては、極めて不満ではあるが、国労等が闘争を中止している中で、この時点で闘争を継続してもこれ以上の前進ははかれないと判断した経過がある。このような経過をふまえ、19日の本社交渉の中で、大合理化とタイマ、した超低額回答をわれわれは断じて認めないことを強く主張したのである。

今後公労委の仲裁へ移行することは必至の情勢になるが、われわれは、労働側の屈服状況・管理春闘を打破し、大巾賃上げを獲得するために、60・3「3・24」総決起の力を背景に、85春闘勝利、首切り「三本柱」粉碎、「過員対策強行阻止」へむけて、当局・中曽根内閣と真に対決する闘いを更に強化していかなければならない。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！



19日国鉄
当局回答

合理化
だき合わせの

超低額回答許すな

国鉄「分割 民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎 /